『林業経済』編集委員会（50 音順）
山本　伸幸（編集委員長）　興梠　克久（副委員長）　原　研二（副委員長）
石崎　涼子　市川　隆史　小川三四郎　佐藤　孝吉　柴崎　茂光　関岡　東生
関　良基　竹本　太郎　立花　敏　寺内　大左　早瀬　悟史　三木　敦朗
山本　美穂
事務局
土屋　俊幸（所長）　大西　純（事務員）

≪編集後記≫

【ふらふら所長の周辺探検　第 11 回】前回の前編に続いて御茶ノ水のアイコン「ニコライ堂」の後編である。信者ガイドの方が説明してくれた、この教会の歴史は、まさにロシアと日本の関係に翻弄された激動の歴史だった。まず設立の経緯からみていこう。大方の方が予想されるように、この教会の愛称「ニコライ堂」は、教会設立に尽力したロシア人ニコライに因んでいる。明治維新の 10 年前、1858 年に日露修好通商条約が調印されて、日本とロシアの間に正式な外交関係が樹立されると、函館に駐日ロシア領事館が開設された。この時に赴任した初代に替わる司祭の公募がロシア国内であった。修道司祭ニコライ、本名イオアン・デミトリヴィチ・カサートキンは、ロシア最西部、現在のスモレンスク州の出身で、サンクトペテルブルクの神学大学に通っていたが、この公募を見て来日を決意した。ニコライは、艦長ゴロウニン著『日本俘虜実記』を読んで日本に興味を持ち、かねてから希望の海外伝道の赴任地として日本を選んだ。単身、馬車でシベリアを横断し、軍艦で 1861 年函館に赴任する。日本語の習得、日本文化の学習に熱心で、同志社の創立者・新島襄も米国に留学する前に、ニコライに日本語を教えていたという。

1869 年、布教の実績を積んだニコライはロシアに戻り、有力者に精力的に働きかけて日本伝道会社（宣教団）を設立し、その社長として再び日本に赴任し、東京の神田駿河台に拠点を移す。東京復活大聖堂（ニコライ堂）が起工されたのは、それから 12 年後の 1884 年だった。

1891 年の竣工後、現在に至る 130 余年の歴史を簡単に振り返れば、危機が 4 回あったという。第 1 の危機は日露戦争である。教会・信徒はロシア側のスパイ「露探」と誹謗弾圧された。ニコライは多くのロシア人が帰国する中で、キリスト者として中立を守り、残留を選んでいる。第 2 の危機はロシア革命で、本国での宗教弾圧とともに海外への献金禁止でロシアからの支援が途絶し財政危機に瀕し、さらにそれから 6 年後に起きた関東大震災による被災が第 3 の危機となった。第 4 の危機は第 2 次世界大戦で、当局による宗教統制により教会も厳しい弾圧を受け、府主教は特高による拘留後に死亡している。

信者ガイドの方は触れなかったが、おそらく現在のロシアによる不当なウクライナ侵攻は、ニコライ堂にとっても第 5 の危機だろう。しかし、ニコライ堂を通じて改めて認識したのは、ロシアと日本の人々の間の深い、長い関係だった。現政権の横暴とこれまでに培われた繋がりはしっかり分けて考えるべきである。（土屋）

研究所業務日誌（2024 年 9 月）
9 月 19 日　『林業経済』9 月号校了

林業経済（月刊）
〈禁無断転載〉
定価　880 円
（本体価格 800 円）

編集発行人　永田　信

発行所　一般財団法人　林業経済研究所
〒 113-0034　東京都文京区湯島 1-12-6 高関ビル 3A
電　話　03-6379-5015　FAX　03-6379-3210
E-mail : office@foeri.org　URL : http://www.foeri.org/
☆本誌は予約購読を原則とします。購読ご希望の方は直接、当研究所までお申し込みください。
1 年　10,560 円（送料共）（本体　9,600 円、消費税　960 円）
学生および院生は 1 年 5,500 円（本体　5,000 円、消費税　500 円）になります。
購読料の振込先
口座名義人：一般財団法人　林業経済研究所
銀行の場合：三菱 UFJ 銀行　秋葉原支店
普通預金口座　4560904
郵便局の場合：振替口座　00110-1-147629

印刷　株式会社ソウブン・ドットコム　東京都荒川区西尾久 7-12-16